

## 委員会での検討経過

回数		検討・確認内容	今後の課題
第1回  H17.8.1	趣旨説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>本委員会の最終目標は、土壤保全新手法開発、流域総合保全構想提案、同構想策定のガイドライン提案とし、総合調査の一環として2ヵ年で検討する。</li> <li>流域総合保全構想は、塩水川流域をモデルとし具体的な検討を行う。</li> <li>試験施工はあくまでもパイロット的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シカの生息密度と長期的動向の把握</li> <li>各事業で実施した調査について、どんなものがあるかというリストの把握</li> <li>人工林の施業履歴の把握</li> </ul>
神奈川県社会福祉会館	土壤保全新手法開発の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>本委員会で主に検討する土壤浸食は、崩壊地における侵食ではなく、ブナ等上層木のある場所での林床植生の衰退による表面土壤浸食とする。従来の治山技術では主流ではなかった。</li> <li>石川委員より手法の提案(保護柵改良手法、リター活用手法、筋工等勾配緩和手法の改良等)</li> <li>植生回復がベストだが、即効性としては毎年供給されるリターを使わない手はない。急傾斜地は柵等の囲い、緩傾斜地はリターを捕捉しとどめる方法が有効ではないか。</li> <li>施工地の対象区として無施工地を必ず設ける。</li> <li>シカ管理が鍵だが、現状では簡単には密度を落とせないため、シカがいる条件のなかでより有効で手間がかからずまた必要があれば集中投資するような戦略はなにか議論する。</li> </ul>	
	塩水川流域保全構想検討の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>土壤浸食に影響するシカの対策については、生息環境管理を事業として明確に位置づけ実施すべき。</li> <li>流域保全構想は、様々な事業が実施されていてデータが多いことから、塩水川流域をモデルに検討する。場所場所での課題の優先度、整合性を議論する必要がある。</li> </ul>	
第2回  H17.10.17	平成17年度試験施工内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来にわたって施工しない比較対象の場所を設け同時にモニタリングすることにより施工の評価をしていくべき。</li> <li>各検証項目について、具体的な検証方法を詰めて明記しておくべき。(後の評価のため)</li> <li>木製ガリー浸食防止工については、手法としては検討の必要が無いわけではないが、堂平のあの場所で施工(たとえ試験的であっても)することの是非についての議論があるため、H17の施工は見送る。</li> <li>ガリーの進行など実態がわかっていない部分もあるため、実態を先に整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局から各検証方法の具体案提示</li> <li>ガリーの現況写真、現存する木製構造物の状況</li> <li>現況のまま保存するエリアを地図におとす。</li> </ul>
かながわ県民サポートセンター	丹沢大山保全対策の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局から、塩水川流域保全構想の検討の進め方、現行の丹沢大山保全対策事業の実施状況について説明。</li> <li>行政資料も検討材料とするようだが、これまでは無かったことで、ぜひ必要なこと。</li> <li>現状のシカ管理での目標密度は暫定的な設定である。広い意味での緊急対策としたら、何らかの大量捕獲方法でシカ密度を極端に下げるといふ試行も考えられる。ただし、この委員会での議論では不十分で他との調整が必要となる。</li> <li>シカ対策は、特定の流域だけの検討では済まないもので、別に専門的に議論する必要がある。</li> <li>丹沢大山保全対策事業の達成度は、数量だけでなく定性的な課題に対するものも整理すべき。</li> <li>事業評価も定性的評価が必要。</li> <li>各対策事業は、もともとはシカが原因となるものが多い。シカ密度が高いことが個別事業とどう関連しているかを整理し、シカ管理という面から整合を図ったらどうか。</li> <li>他に焦点となるのが、高標高域の植生回復(土壤保全)、中標高域の収容力を増やす人工林管理のあり方。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工林で下層植生のないところの図示</li> <li>流域内の溪畔林を図示</li> </ul>

## 委員会での検討経過

回数	検討・確認内容		今後の課題
第3回 H17.12.22 かながわ県民サ ポートセンター	試験施工の検証 方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験施工はほぼ終了。事務局より施工の状況について報告。</li> <li>・現地作業量の多いものは、設置箇所周囲の地面を攪乱する影響が大きくなるのではないか。</li> <li>・木製筋工のネット部分は、リターがネット上にたまることになるがたまったリターはネット下にあったほうが、土壌化には効果的で</li> <li>・名前は目的別に整理が必要か？</li> <li>・リターへのシカ影響は、数値的にはほとんど分からないので</li> <li>・土壌浸食量は、7～9月がメイン。ここで差がつくかどうかで効果がわかる。</li> <li>・今年度施工手法のリター捕捉効果は来年秋に検証。</li> </ul>	
	塩水川流域総合 保全構想につい て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然再生基本構想－ガイドライン－塩水川流域総合保全構想の3段構造で位置づける。</li> <li>・塩水川流域については「構想」では基本構想と混同するので、別の言葉とする。</li> <li>・資料の基本構想の欄の記述には、まだ未確定のものもある。(更新サイクル、内容の詳細等)</li> <li>・政策検討側で基本構想から実際の事業実施への流れ図が必要である。</li> </ul>	
第4回 H18.3.14 厚木商工会議所	塩水川流域総合 保全推進モデル (仮称)と策定ガ イドラインについ て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩水川流域総合保全推進モデルでは、分かっていたら希少種などの対策も含めるべき。</li> <li>・崩壊地問題は、中長期的視点での課題に入るが、今回はシカによる森林内の土壌侵食を対象として緊急に検討している。</li> <li>・要因連関図は再整理する必要がある。</li> </ul>	
	土壌保全新手法 開発における平 成18年度の試 験施工の考え方 について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング調査の計画書が必要。</li> <li>・丸太チップの使用は、特別保護地区でもあるので慎重にすべきである。</li> <li>・丹沢全体での対策の必要な区域やその面積等を把握する必要がある。</li> <li>・植生保護柵なしでも侵食防止できる工法が今回の最終ターゲットである。</li> <li>・緊急対策事業を推進するに際して庁内での連携が必要である。</li> </ul>	